



# 八坂中学校だより

令和4年6月 日(水)

6月号

大町市立八坂中学校

## 学校の「宝」

6月8日(水) 校長講話より

今日のテーマは「宝」です。

学校には、宝がたくさんありますが、皆さんは見ているかな、どこにどんなものがあるか、クイズから始めましょう。



Q1 どこにあるかな？

A(生徒から) 「職員室の前」

そうですね、職員室前、玄関のホールにあります。

世界的な賞を受賞した洋画家 小島金三(こじま きんさん)氏の作品「水・生命 讃える詩」という作品です。

作品の横には、作者からのメッセージが貼ってありますので、見てください。この大きな作品が、いつ、どうして八坂中学校に来たのかはわかりませんでした。



Q2 どこにあるかな？

A(生徒から) 「2階の廊下」

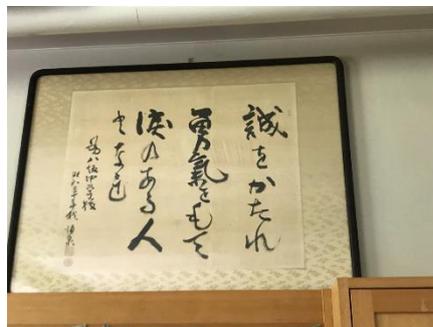
大きな木版画ですね。

左上に「山頭火句集より 鴉鳴いてもひとり 平成三年五月 武」と書いてあります。

Q2 山頭火について知っている人はいますか？

A 「分けっても分け入っても青い山」の句を作った人です。

そうですね、国語の教科書にも出ています。山頭火という人は、人の心の弱いところ、悲しいところを巧みに表現した俳人です。調べてみたら、平成元年から四年間本校で美術の先生をしておられた「武田光弘先生」の作品だと分かりました。



この職員室前にある石碑、この元は図書館にあるこの額です。「為八坂中学校 昭和三十年秋 涌泉」と書いてあります。読める人はいますか？

誠をかたれ

勇気をもて

涙のある人となれ

この書を書いてもらったのは、昭和30年のこと、その時の校長 百瀬渉先生が、小原福治先生を八坂中学校にお招きして、「トム・ブラウン」について講話をしていただいたと記録にあります。「トム・ブラウン」とはイギリスの少年が主人公で、寮生活を送りながら学校に通い、スポーツや勉強に取り組み、けんかやいじめを乗り越えて成長するお話です。

百瀬校長先生は、小原先生にお願いして、この額を書いてもらいました。その時の百瀬校長先生の言

葉です。

「なんだか、私たちの学校に魂が入ったような気がします。

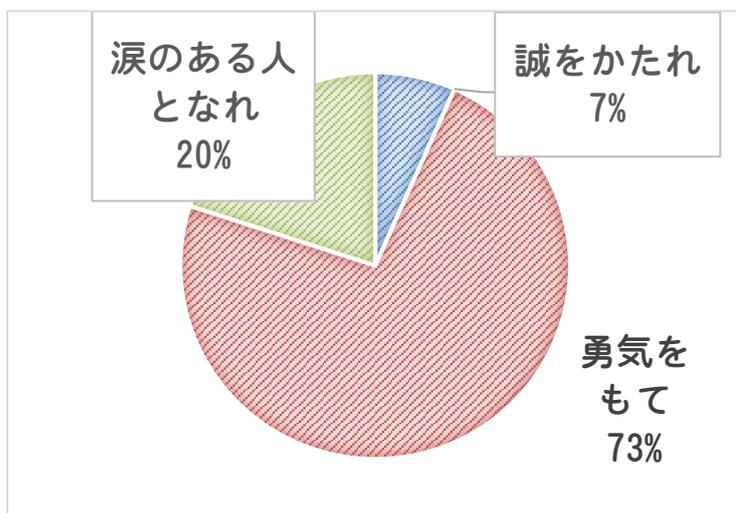
今後も、この学舎に学ぶ、限りないたくさんの人たちが、たゆまない、日ごとの努力によって、自主独立、しかも豊かな日本人に成長していくことを心から祈ってやみません。

我が八坂中学校に栄あれ。」

百瀬先生は、この学校を去って6年目に、ご自分のお金で石碑をつくって、寄付してくださいました。この言葉が、ずっと先のみなさんにも読まれ、考えるもととなることを願っていたのだと思います。今日は、皆さんに課題を出します。

誠をかたれ  
勇気をもて  
涙のある人とな

これからの自分に必要なことを、一つ選ぶとすれば、3つの内どれですか。選んで書きましょう。選んだ理由を書きましょう。校長室へ提出してください。



#### 【後日の回答から】

「勇気をもて」を選んだ生徒が、群を抜いて多い結果となりました。

#### ○勇気をもて

「私は時々勇気が持てずに、自分自身に負けてしまうことがあります。難しいときになかなか前に進まずにいるので、今の自分に必要なのは『勇気』だと思います。」

「何をするにも、始めの一歩を踏み出して行動するためには勇気が必要だと思う。これからは勇気をもつために、様々な経験をしたり、人と関わったり本を読んだりして勇気のもてる人になりたい」

#### ○誠をかたれ

「ありのままですぐな心をもつ人になりたいと思ったから。裏表がなく常に元気でいい意味でうるさい感じていたい。そして、相手の意見を受け止められる人になりたい。」

#### ○涙のある人となれ

「人のために泣けたり、自分の感情をちゃんと出せたりとか、ちゃんと自分の感情どおりに表現できるようにになりたい。人のことも自分のことのように共感できて優しい人になりたい」

「相談とかされたときに、親身になって話に乗れる人になりたい。自分の心に正直に生きたい」

八坂中学校は、来年度の小中一貫校の開校に向けて準備中です。「八坂中学校」という名前も今年度限り、あと10か月ほどでなくなります。

その中でも、「八坂中学校」開校以来、多くの方々が学校のことを思い、巣立ってゆく中学生に熱い期待をかけ、有形無形様々な「宝」を学校に寄せてくださいました。そのことも忘れず、それもまた次の新たな学校に引き継いでいきたいと思えます。

今回は、百瀬渉第二代校長先生の言葉について考えました。67年前の言葉を、生徒が今の自分に引き寄せて考えていました。自分について考えることは、「自分が好きと言える子ども」への第一歩だと思います。